

グリーン・ユニバーシティに表現へ向け
法政大学環境報告2005-06

「第3号の発行」

人間環境学部教授 市ヶ谷環標委員会委員長
渡邊 誠

本学における環境意識の高まりは1999年の学校法人法政大学環境憲章の制定に発展し、「グリーン・ユニバーシティ」という概念が誕生しました。人間環境学部が設置され、環境マネジメントシステム(EMS)がスタートしたのもこの年のことです。それ以後、法政大学では学部・大学院・研究所における教育・研究の面のみならず、ISO14001の構築・運用などによるEMS活動の面からの取り組みも合わせて総合的な環境教育・研究を実現することを目指してきました。

本報告書は、環境についての様々な取り組みや活動内容に関する情報を大学の内外に発信するためのものです。今回は第3号の発行にこぎつきました。本報告書は環境省などが示している環境報告書の指針にはとられない方式をとっています。本学における取り組みなどの実態を分かり易くお伝えしたいと考えているからです。

本報告の編集にあたっては次の点を満たすよう努めました。

1. 「グリーン・ユニバーシティ」の理念を解説する
2. ISO14001の仕組みや具体的な目的・目標などを解説する
3. EMSの活動内容ならびにその結果を報告する
4. 環境に関連した研究・教育について分節を整理しながら紹介する
5. 学生の活動や地域との連携などを紹介する
6. 学内の方々のみならず、OB・OGや外部の方々からのご意見も掲載する

本報告書の発行にあたりましては、学生・教員・職員をはじめ、様々な方々のご協力をいただきました。ここに感謝の意を表したいと思います。本報告書が皆様の参考になることができれば幸いですと考えております。

目次 CONTENTS

編集方針	3
特別座談会	4
グリーン・ユニバーシティ概念図	7
2005年度の取り組み	8
1 環境改善活動(市ヶ谷・多摩)	9
ISO14001(環境マネジメントシステム)とは	10
活動に参加して(市ヶ谷・多摩環境委員会専門部会)	20
2 環境教育・研究活動	25
文化	26
制度	27
都市	28
自然	29
学部別環境関連セミナー・授業科目一覧	31
3 学生の環境改善活動	33
コラム1 多摩キャンパスでホテルを復活させようがスタート	36
4 地域との連携	37
5 卒業生・外部からの期待	41
コラム2 日本自然保護協会等との連携始まる	44
6 資料編	45
屋上緑化への取り組み	46
学内行動「コンパ」[法政多摩キャンパス]関係の手引	50
経緯と登録状況	51
法政大学環境管理規程	53
市ヶ谷キャンパス教育研究組織の整備状況(環境負荷データ)	54
編集後記	55



発行時期 2006年3月 次回は2007年3月予定
発行実績 2004年3月より発行 2005年3月発行

特別座談会 学生たちが緑風とともに環境への思いを熱く語り合いました。

グリーン・ユニバーシティを 目指して

法政大学総長
人間環境学部3年
人間環境学部2年
キャリアデザイン学部2年
社会学部3年
社会学部1年

平林 千夜
山口 彩乃
木之内 優
石橋 大
大竹 大
石田 純一



総長 法政大学では、地球環境問題に対する関心の高まりを背景に「グリーン・ユニバーシティ」の実現に向けた取り組みを行ってきました。人間環境学部ならびに大学院、環境マネジメント研究所を創設するなど環境さらには工科大学デザイン研究所を創設するなど環境教育研究活動を推進してきました。また、環境マネジメントシステムをISO14001規格に基づいて構築し認証を取得、キャンパスの環境改善活動を推進してきました。わが国における総合大学では初めての認証取得ということになりました。

大学の使命は高等教育機関として社会で活躍できる人材を養成することにあるといえるでしょう。今日、大学教育において「環境」は重要なキーワードであると思っています。

自らが課題を発見し、解決策を提案し、それを継続させていく姿勢をもつことは学生にとって重要な問題です。このような意識は環境への取り組みを通じた実際の経験から養われるものであると思っています。法政大学の特徴は環境保全活動への取り組みにあります。今後いかにこれらを豊かにしていくかが課題となっています。

多摩キャンパスのホテルを復活させよう

総長 多摩キャンパスは自然の中にあり、緑の豊かな環境が豊かです。自然観察をするのには適した場所ですね。多摩キャンパスではホテルを復活させるための取り組みが開始されたそうですね。ホテルとい



法政大学総長 平林 千夜

えばきれいな水辺に建つということで、豊かな自然のシンボルのひとつですが、「ホテルを復活させよう」を決定させるきっかけは何だったのですか？

大 竹 2004年から多摩キャンパスにもISO14001のサイトが拡大され、環境マネジメントシステムが導入されました。そして多摩に環境センターができて、学生の意見・要望を受け付けてくれる仕組みが充実されました。

かつての多摩キャンパスにはホテルが生息していたといわれています。もう一度ホテルを復活させたらどうか？という素朴な呼びかけからスタートしました。環境教育部会



大竹 大
ホテルを復活させようのメンバー

一でホテルがいたという池を見に行きました。

2005年の4月から6月にかけて学生・教職員20名、ほどが葉まり、池の整備をしました。鎌などが使える状況ではなかった手で草を抜いたり、池の泥を掘り起こして水が流れるようになりました。その後ホテルの幼虫の餌となるカワナも数千匹放流しました。

総 長 今はどうなっていますか？



石田 純一
ホテルを復活させたいの職員

石 田 今こうした作業で池の水質がよくなり、ホテルの成育に適した環境が徐々に整ってくると思っています。その調整池にはプララックバスやブルーギルなどの外来種が生息しているのですが、それも駆除しています。おそらく2〜3年後にはホテルの飛ぶ姿が見られるようになると思っています。

入 竹 この池の周囲は緑が多いので、ベンチを置くなどすると、学生、教職員の安らぎの場所となるのではないのでしょうか。ホテルは自然のイメージにぴったりのなので、学生が環境に興味を持つきっかけになると思います。

一市ヶ谷キャンパスの屋上緑化計画

総 長 ところで、ちょうど1年前、市ヶ谷キャンパスの校舎屋上に緑化スペースを設けたのですが、これは学生からの提案を受けて実現したものです。行動力のある学生がいることを頼もしく思いました。屋上緑化を考えたのはどういう経緯ですか？

谷 口 私は入学したとき、大学のキャンパスというものにも興味に市ヶ谷キャンパスでも顕著に市ヶ谷キャンパスは都心に位置しているため緑が少ない感じがしました。グリーン・ユニバーシティをめざしているにもかかわらず、キャンパスに緑が少ない。学



谷口 孝
屋上緑化プロジェクトメンバー

※1 この池は第4号調整池といわれています。1984年多摩キャンパス開校の後に工学部棟を造成する場所に小さな池がありましたが、造成にあたり雨水を貯め火災を防止する目的で作られたものです。

※2 環境園は2000年以降、毎年開催しており環境機器の展示、学生の制作したパネル展示などを行っています。この年は、2つの学生グループからキャンパスの緑化を提案するパネルが展示されました。

生にとって憩いの場が少ない、少しでも安らぎのある空間が欲しい、などと思っていました。

太 田 そして2003年10月の「環境展^{※1}」のパネル展示に参加し、こうした思いを訴えしました。その後この提案を市ヶ谷環境委員会が取り上げてくれ、屋上緑化プロジェクトの発足し、学生スタッフの募集がありました。私たちももちろんスタッフに参加しました。



谷口 孝
屋上緑化プロジェクトメンバー



谷 口 具体的な屋上緑化案を考えるにあたり、様々な先進事例を見学したり資料を集めたりして勉強をしました。今では屋上緑化に関する資格である「スカイフロント・コーディネーター」を取得した学生が5名もいます。

最終的にはアンナード・タワー4階テラスと58年館屋上の2箇所を緑化することになりその設計図も学生で作りました。設計会社の方にも、よく考えてあるとお褒めの言葉をいただきました。

2005年3月に緑化工事が行われているとき、僕たち学生スタッフもその工事に参加させてもらいました。市ヶ谷キャンパスは外堀から千歳ヶ淵までのグリーンベルトに位置しています。市ヶ谷キャンパスで緑化を進めるのは、都心の緑が少ない場所緑のネットワークを作ることにもつながります。

太 田 もう屋上にはいるんな昆虫が見られるように

なっています。

総 長 今後はどのような目標を持っているのですか？

石 田 工事が終わったあと、市ヶ谷環境委員会に維持管理プロジェクトが設けられたので、僕は引き続き学生スタッフとして参加しています。屋上緑化については、工事が完了したスタートだといわれています。私たちもこれから日常的な管理をしっかり継続させていきたいと思っています。さらに、2箇所の緑化スペースの管理だけでなく、今後完成する新しい施設でも屋上緑化が計画された場合には、具体的なデザインの提案ができるよう努力したいと思っています。

総 長 市ヶ谷キャンパスにおいては教室などの施設の拡充整備を進めています。2006年4月から使用する富士見坂校舎(旧富沢学園)では、屋上に庭園が作られており生徒のみみなさんが手入れをしてきたそうです。それを引き継いで管理して欲しいと思っています。また現在工事中である新複合施設にも屋上緑化スペースを設ける予定です。これまで培ってきた学生の皆さんの知識や経験を生かしてよい提案をしてくれればありがたいと思っています。さらに、2007年度には付属中高等学校(現一中高)を三鷹市(旧東京女子大学年礼キャンパス)へ移転しますが、ここでも環境に配慮した校舎建設を進めていくつもりです。

総 長 グリーン・ユニバーシティを目指して、キャンパスの環境改善が進んでいます。小金井キャンパスにも近いうちにISO14001のサイト拡大を実現したいと思っています。



谷口 孝
キャンパスエコリーダー代表

環境改善活動が広がっています。

これからのグリーン・ユニバーシティ

総 長 学校法人法政大学は付属校をふくめ都心と近郊に幾つかの校地をもち、今後のキャンパス作

りにおいては環境を意識することが重要だと考えています。これからも学生のみみなさんからの様々な提案を期待していますし、みなさんの活動をサポートしていきたいと考えています。学生・教職員の協力で環境に関わる教育研究活動をより充実させ、「グリーン・ユニバーシティ」の実現へ前進したいと考えています。



あとがき

この座談会は、2006年3月9日ポアンナード・タワー26階A会議室で行われました。座談会に先立ち4階グリーン・テラスの手入れも総長を交えて行ない、終始なごやかにキャンパスの環境改善への将来の夢を語り合いました。

文責：市ヶ谷環境委員会委員長 渡邊 誠
(人間環境学部教授)



2005年度の取り組み

多摩キャンパスでホテルを復活させ隊がスタート



6月9日(木)、午後1時から「多摩キャンに甕を復活させ隊」の初めての作業を4号調整池で行いました。参加した隊員は24人、教員が岡部雅史隊長(経済学部教授・EMS委員)と岡野内正社会学部教授、学生は22人(経済1、社会19、工2)うち女性が3人でした。

<以下36ページに続きます>

日本自然保護協会等との連携始まる

多摩キャンパスの開校は1984年4月、面積82万4千㎡、標高175.4~230.7の丘陵地を開発しました。校地の半分は森林であり、山道をジョギングコースとして学生、市民に開放しています。この森林地帯は多摩地域で呼ばれる「里山」であり、大学としては、災害防止や一定程度の下草刈りを行ってきましたが、森林内の動植物変遷等は調査していませんでした。ISO14001認証取得を契機に、キャンパスの広大な緑も活用したらどうかとの議論がでてきました。

その第1弾が財団法人日本自然保護協会主催の「自然観察指導員講習会」の会場校としての協力です。2004年11月26日から28日の3日間開催され、スタッフ15名、受講者60名は沖繩から北海道まで全国各地から参加しました。スタッフと遠距離の参加者は学内の百周年記念館に宿泊し、備

表は同記念館や経済学部棟、野外実習フィールドとして記念館周囲の森林が使用されました。初日の夜は経済学部食堂でレセプションが開かれました。講師、参加者からは好評で、首都圏内に講習会に適した緑地があることに賞賛が寄せられました。大学からは池田委員長以下、多摩事務部長遊藤が全日程をサポートし、ボランティアとして社会学部生4人、総合情報センター臨時職員1名が参加しました。なお、同講習会は多数の地方自治体や企業が誘致に熱心である中で、本学キャンパスを会場校として選定いただいた日本自然保護協会に敬意を表したいと思います。

この実績をもとに2005年度はさらに本格的なプログラムを実施することとなりました。

<以下44ページに続きます>

市ヶ谷キャンパス屋上緑化名称決定

ポアノナードタワー4階アtrラス及び58年館屋上に設置された屋上緑化スペースの名称が決定しました。多数の応募に御礼申し上げます。12月21日(水)、感謝状授与式がポアノナードタワーB会議室において行われました。式には、受賞者3名の方々をはじめ、選考にあたった教職員が参加、また緑化プロジェクト学生スタッフも列席しました。はじめに渡邊誠 市ヶ谷環境委員会委員長・環境管理責任者から、この屋上緑化は学生の提案により実現したものであり、思いの場として広くPRし有効に活用していきたいと挨拶があり、受賞者ひとりに感謝状と記念品が手渡されました。続いて田中聡 緑化プロジェクトリーダー(人間環境学部教授)より総

評が述べられ、最後に受賞者から感想などを語ってもらい、やかな雰囲気での式は終了しました。

<46ページを参照してください>



グリーン・ユニバーシティ概念図

